- ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真 1)(表 1)などと文中に記載し、右ページに(写真 1)(表 1)などと表記の上、貼り付けてください。
- ※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。
- ※いずれの場合も、必ず A 3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

カリキュラム・マネジメント部門

エントリー名:

東京学芸大学附属学校園竹早地区(東京学芸大学附属幼稚園竹 早園舎、附属竹早小学校、附属竹早中学校)

活動名: 学びを深める場をつくる ~ 「手立て」に焦点を当てて~

解決すべき課題:

- ①「自ら学びを深めようとする子ども」を育てるために、必要な汎用的な力を明らかにすること。自ら学びを深め ようとする際、教科内容の学習内容だけでなく、課題を見出すことや多面的に考えるといった教科領域を 超えた力の育成も重要と考え、その内容について検討する。
- ②子どもが学びを深めるために、どのような「学びを深める場」や教師の「手立て」を実践において作ることがで きるのか、幼小中連携の視点を入れて明らかにすること。

目標:方針:

- ①昨年度、竹早地区の全教員が子どもの姿を想定して挙げた自ら学びを深めるために必要な汎用的な力 について、カリキュラム・リデザイン・センター(the Center for Curriculum Redesign;以下、CCR)の 枠組みを援用して再整理し、内容の精緻化を行う。
- ②「学びを深める場」や「手立て」について検討するために、実践面と園児・児童・生徒の発達面から検討を 行う。

活動内容:

- ①について・・・Oこれまでに議論を行った実践知に基づく「汎用的な力」に内在する課題について検討し、C CRの枠組みをもとに汎用的な力の再整理とその内容について検討を行う。
- ②について・・・〇整理後の「汎用的な力」から、対応付けられる手立てについて各教科領域で検討を行い、 手立ての特徴を明らかにする。
 - ○発達段階に応じた「教師の関わり」から、「学びを深める場」や「手立て」について明らかにす る。「教師の関わり」の傾向を導くために、テキストマイニングを手法として「教師の関わり」に 関する質的な文字データを量的に分析する。

活動の成果:

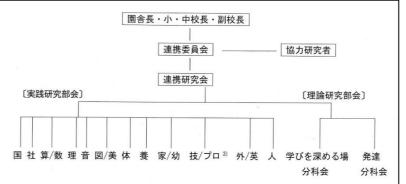
- 〇これまで汎用的な力として設定していた8つのカテゴリーを竹早地区が目指す「子ども像 lから 知識 l 「スキ ルバ人間性バメタ学習に整理することで、目指す汎用的な力とその具体的な中身が明確になり、授業 実践をする上で有益に活用することができた。(図2、図3)
- ○教科領域の過去の授業実践から手立てを検討することで、4つのカテゴリーにおける具体的な手立てを明 らかにすることができた。(図4)また、竹早地区における研究の傾向として「スキル」に焦点を当てた授業 実践が多いこと、一つの実践の中に複数の汎用的な力が働く様相についても明らかになった。
- ○発達段階に応じた「子どもの傾向」と「教師の関わり」をまとめた「ステージ・ステップ」について、「教師の関わ りを中心に1カード、1情報に分け「因果関係」「対立関係」「相関関係」の視点で関連付けたことで、 「10の教師の関わり」(図5)を明らかにした。また、テキストマイニングによって、教師の関わりは「ステ-ジ・ステップ」ごとに特徴が現れることを明らかにした。(図6)

アピールポイント(アイディアや工夫):

- ○汎用的な力の具体について、先行研究だけをもとに考えるのではなく、幼小中全教員が、授業実践で見 られた子どもの姿から検討していること。
- ○授業実践から竹早地区で大切にしている汎用的な力をCCRの枠組みと関連付けながら再整理したこ とで、21世紀における子どもに求められるカリキュラムデザインを策定することができたこと。
- ○テキストマイニングという手法を取り入れたことで、教師の関わりの中で重視したり、関連付いたりしている事 柄を「見える化」することができたこと。

※事務局記入欄

No. A-54





【様式2】

図1 竹早地区の研究組織

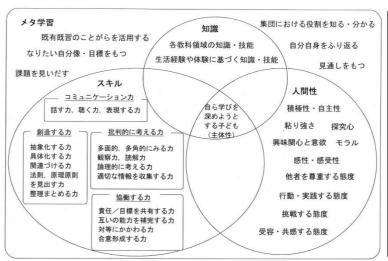


図2 昨年度までの汎用的な力

枠 組 み 知 識		教科領域	手立て					
		人間	具体と抽象の橋渡し (抽象的な考えたことの具体での実感)					
	批判的に考える	国語	複数の視点から描かれる数材の使用					
	批判的に考える	社会	技術支援に関わった方からのフィードバックの実施					
	批判的に考える	社会	写真、映像資料の活用					
	批判的に考える	算数	構成活動を多く取り入れる					
	批判的に考える	人間	対立構造の可視化をさせる					
	批判的に考える	音楽	音選びや、音色やリズムの重ね方にこだわりをもつ					
	批判的に考える	美術	生活世界を新たな視点で見直す機会の設定					
	批判的に考える	人間	モラルジレンマ					
	批判的に考える	数学	図をかく					
ス	創造する	国語	視点ごとに区切って教材を提示する					
キル	創造する	社会	子どもにとって身近な「水」の問題を含む事例の提示					
	創造する	数学	証明の根拠を問い、明らかにする					
	創造する	数学	模型をつくる					
	創造する	美術	表現活動と鑑賞活動の有機的なつながりを生みだす					
	コミュニケーション	社会	ODA のあり方を考えるパネルディスカッション					

図3 CCRの枠組みから再整理した汎用的な力 とその内容

図4 汎用的な力に関わる手立て(一部)

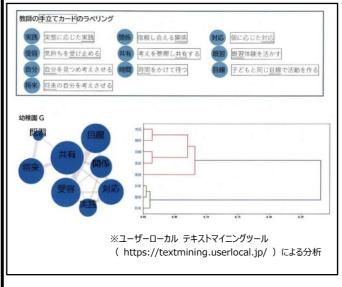


図5 テキストマイニングから「10の教師の 関わり」を分析(一部)

教師のかかわり

クラスの実態に応じた[実践]計画と 子どもたちと同じ[目線]に立ち 一緒に考えていく活動が 幼小中を通し大切にされている。

実	践	実践	関係	対応	受容	共有	既習	自分	時間	目線	将来			
幼稚	園		3.7%	3.7%	3.7%	3.7%	3.7%	3.7%	3.7%	3.7%	0.0%			
小1	2		3.6%	5.4%	5.4%	0.0%	0.0%	3.6%	5.4%	5.4%	0.0%			
小3	4		1.5%	1.5%	1.5%	1.5%	4.5%	0.0%	1.5%	4.5%	0.0%			
小 5	6		2.1%	0.0%	0.0%	4.3%	6.4%	2.1%	0.0%	6.4%	2.1%			
中	中 1 小56では、低中学年の[既習]を生かすことと 2.1%													
中 2	3	クラスの実態に応じた[実践]計画が 授業づくりの土台となっている。 5.6% 1.99												
[受容	[受容]-[時間]との関係は小学校以降で非常に強い。													

→幼稚園では前提であり十分に確保できている。小学校以降は教師が意図的に確保する必要。

[対応]-[受容][時間][目線]との関係は幼小接続期で非常に強い。 →幼小連携=遊びを中心とした活動が教師の関わりでも反映。

[将来]-[対応][受容][既習][自分][時間][共有]との関係は学齢が上がるにつれ強くなる。 →キャリア教育やシチズンシップ育成など卒業に向けた連携が反映。

図6 テキストマイニングによる子どもの発達段階と 教師の関わりとの傾向と分析結果(一部)